

子どもの発想を生かす算数科学習

小学校学習指導要領を見ると、算数科の目標は「数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる」となっています。そこで、そうした算数科の目標を受け、本校では、本年度、研究教科を算数科とし、「わかる、できる、楽しい算数科学習をめざして - 基礎・基本の定着を図る指導の工夫 - 」を研究主題として、研究を進めることにしました。

さて、6月27日に、6年生の授業が行われました。単元名は「体積」で、目標は、
体積の意味が分かる

体積の単位()を知り、その相互関係が分かる

直方体、立方体の体積の求め方が分かり、体積を求めることができる

内のりの意味が分かり、入れものに入るかさを求めることができる 　　です。

当日は、「複合した立体の体積を求めることができる」という目標で、授業が行われました。まず、右下の図にあるような複合した立体の体積を求めるという学習課題が、子どもたちに提示されました。次に、子どもたちは、既習学習(立方体、直方体の体積の求め方は、一辺×一辺×一辺、縦×横×高さ)をもとに体積の求め方について、見通しを立てました。子どもたちは、縦に切って、2つの直方体にする 横に切って、2つの直方体にする 同じ立体を組み合わせ2で割るなど全部で5通りの見通しを立てていました。子どもたちの柔軟な思考力に驚かされました。続いて、子どもたちは、見通しにしたがって体積を求めました。ほとんどの子どもたちが、既習学習をもとに体積を求めることができました。最後に本時の学習のまとめを行い授業が終わりました。子どもたちが、個々の発想を生かし、楽しく学ぶことができた算数科学習でした。





〔劇鑑賞会〕 - 楽しみながら大切なことを学ぶ -

6月30日に、本校の講堂で、劇鑑賞会が行われました。ねらいは「優れた演技や楽しいストーリー - に直接ふれ味わうことで、豊かな情操を育てる」です。

劇の題名は、「ド - ナツ池のひみつ」で、第46回青少年読書感想文全国コンクール課題図書「ライギョのきゅうしょく」を脚色したものです。

劇の内容は同じですが、低学年と高学年に別れて劇を鑑賞しました。音楽が流れる講堂に入っていくと、フロア - に舞台が設置されていました。子どもたちは、その舞台を囲むように座りました。はじめに、先生の話があり劇が始まりました。

「ド - ナツ池のまわりにお集まりのみなさん、おはようございます。」という劇団の方の元気なあいさつの後、劇に登場する魚たち（ライギョ、ハリヨ、タナゴ）の紹介がありました。ユ - モアのある話しぶりに、子どもたちから笑い声が聞こえてきました。音楽が流れて、次々にいろいろな種類の魚たちが、美しい衣装を着て出てきました。その度に、子どもたちから歓声があがりました。また、ライギョ学級の魚の先生が出てきて「みなさんは、魚学校の生徒です。いろいろな学級に分かれ1年間勉強して、1年で卒業しなければなりません。」と話をすると、子どもたちから「エ - !」という声があがりました。

次に、タナゴ学級の先生が出てきて「立派なタナゴになるために大切なことは何でしょう。」とフロア - に座っている子どもたちに聞きました。子どもたちからは「逃げ方」「卵の生み方」「給食の食べ方」「見つからないように土に隠れる」など、いろいろな意見が出てきました。

同じことを劇団の方が話されても、低学年と高学年では、反応が違いましたが、ユ - モアに富んだテンポの速い劇を子どもたちは、楽しんでいたようでした。そして、劇のテーマである「全ての生き物は、他の命を食べねば生きてゆけないこと。人間も同じであること。だからこそ、自分の命を大切にし、食べ物（他の生命）を大切にしよう。」ということについて、子どもたちなりに感じてくれたことと思います。

当日は、保護者の方にも案内し、子どもたちと一緒に劇を鑑賞していただきました。「劇を見て、子どもがどのように感じたのか、聞いてみたい。」という感想も聞かれ、親子で話し合うよい機会になったことと思います。

